※令和４年度以降入学生用

学校番号	１１０

令和８年度　芸能文化科

教科	芸能文化	科目	表現各論（Ⅱ）	単位数	4単位中の2単位	年次	3年次
使用教科書	なし						
副教材等	自主教材						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

直接、芸能とは無関係と思われるところにも芸能の要素や手法は存在しています。それらに注意を向けることにより、芸能の世界により大きく、より高い次元で迫れることを気づかせたいです。実際のイベントやテレビ番組がどのように制作されているか、放送作家の先生の話を聞き、様々な表現方法を理解し自ら実践できる力を身に付けて下さい。

2　学習の到達目標

（1）　講師の指導のもと、芸能の多様な表現方法を知ることをめざす。

（2）　豊かな表現力を持った芸能の表現を探求することで、自ら表現する際の方法を身につけることをめざす。

（3）　授業で取り上げることができなかった芸能などにも積極的に関心が持てる態度や、化属して学べる力の習得をめざす。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	放送業界等で必要な知識や技能を学び、多様な表現方法を理解する。また、効果的な表現方法を身につけるためのプレゼンテーションにおける技法を習得する。	与えられた表現テーマに対して、見通しを立て、自ら必要な材料を用意する。そのための調査方法を模索したり、他者との議論などを通して様々な角度から表現方法を考えたりする。また、表現内容や表現方法を分析・検討し、高めていくために工夫を積み重ねていく。	よりよい表現方法の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりする姿勢を養う。他者とコミュニケーションをとりながら、多様な表現を理解し受け入れることができる人間性を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期中間・7月		テレビ概論	a:テレビ文化の成立について、テレビ放送の仕組みと関連させながら理解している。 b:テレビの持つ娯楽としての特性について、自身の考えを述べることができる。 c:自身の考えのみにとらわれず、他者の考えにも興味を持ち視野を広げようとしている。	・定期考査 ・発表 ・班学習 ・ワークシート	・レポート ・ワークシート ・発表	・班学習 ・ワークシート
前期期末		多様な表現方法から学ぶ	a:級友の発表を見て、表現方法の新たな考えや手法を身に付けている。 b:それぞれが持つメッセージ性に気づき、先に繋げようとしている。 c:　時代や環境が異なる事柄から生きる力のヒントを得ようとしている。	・定期考査 ・発表 ・ワークシート	・レポート ・ワークシート ・発表	・発表 ・ワークシート
後期中間・期末		効果的なプレゼンテーションの企画・制作	a:プレゼンテーションに関する知識を理解している。 b:プレゼンテーション実施に向けて、新たに得た知識や技能を駆使しながら映像等の準備をする。 c:各自のプレゼンテーションが効果的に相手に伝わるように様々な工夫を取り入れて自主的に取り組んでいる。	・定期考査 ・発表 ・ワークシート	・定期考査 ・発表 ・ワークシート	・発表 ・ワークシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度